§ AIオンデマンド交通を軸とした共創の課題について（１）

参考資料３

＜チョイソコへの取り組み状況＞

アイシンは、自動車業界に身を置く立場として、地方における高齢者の免許返納後の移動手段を安全に提供したいという使命感と情熱を持って活動している。

2018年7月の愛知県豊明市を皮切りに、従来の公共交通機関の存続が難しいと思われる地域に、チョイソコを提案し、現在69ケ所でのサービスを一ケ所も中断することなく継続している。

また、地域拡大に必要な資金を得る為に、地元企業からの協賛金や各自治体からの補助金を頂くことで、事業展開しているのが現状である。

しかしながら、地方においては、単位当たりの利用者数が望めない為、移動にかかるコスト負担（車両手配/整備、燃料、ドライバなど）の維持費がかさんでしまう。チョイソコでは、コスト課題に対して、オンデマンド型、かつ乗り合い方式を実現し、オンデマンド予約やコールセンターでの会員管理、地図を利用したAIルートなどのプラットフォームを構築し、全国のサービスを一ケ所で集約管理するなど効率化も進め、低コストでのサービス提供を実現してきた。

また、実際の住民の移動ニーズに寄り添うため、市町村を跨いだ地域間交通の要望もお聞きするが、地域毎のシステムが異なると、情報のやり取りが出来ずにスムーズな乗り継ぎができないという課題がある。

地域交通の一元的な運行管理のためにも、位置情報をキーにした、システム連携とデータ連携、そのベースとなるプラットフォーム化は必要になると考えている。

November 16, 2023 / © AISIN CORPORATION All Rights Reserved.

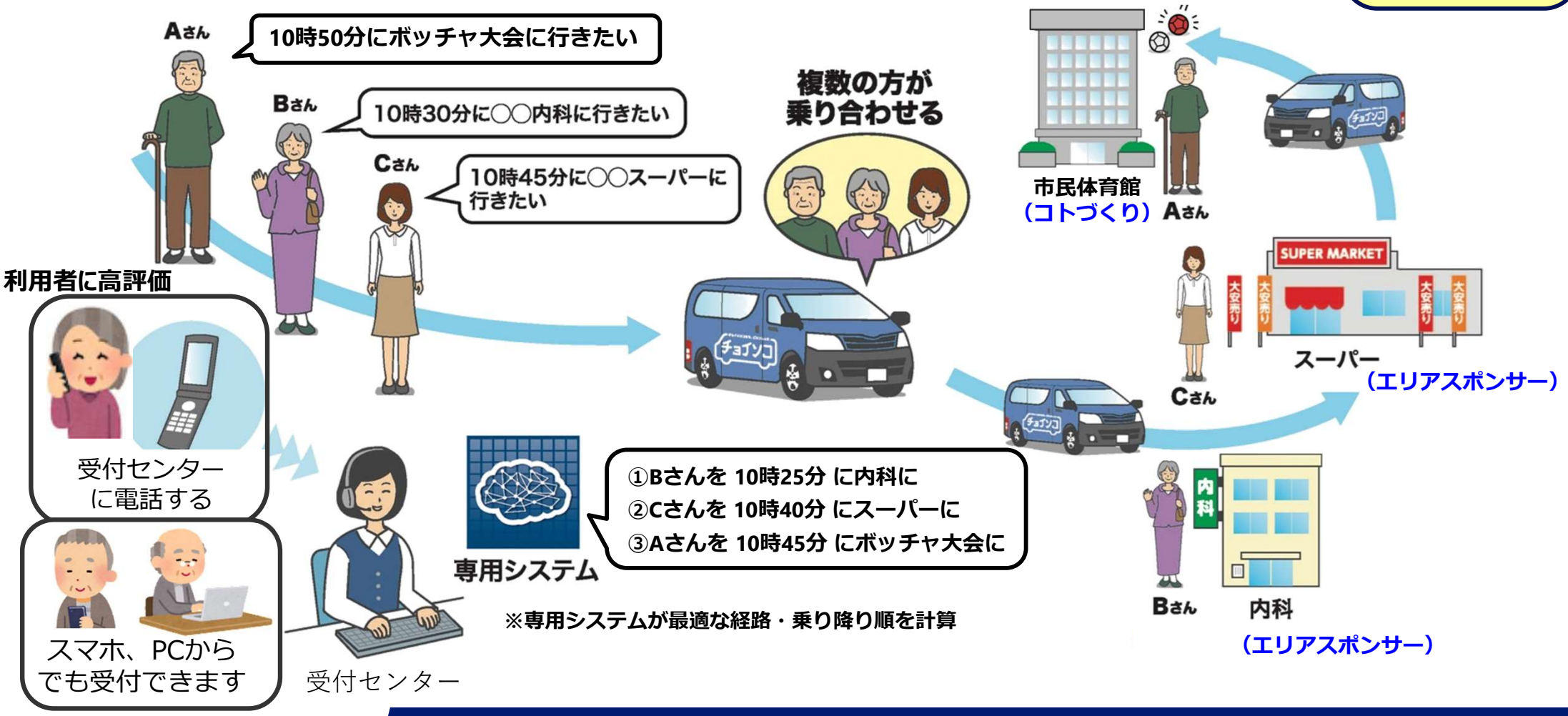
§ チョイソコ（チョイと　ソコまで　ごいっしょに！）

【移動の手段】地域の交通不便を解消し、**移動困難者の外出促進**に貢献するデマンド型交通

【移動の目的】単なる運行システムの提供に留まらず、
心身の健康増進につながる**外出促進のコトづくり**を推進

【エコシステム】持続的なモビリティサービスとして、エリアスポンサーによる
協賛での採算性向上と、**地域の活性化**を促進

全国
69自治体
で展開中
（2023.11.16現在）



November 16, 2023 / © AISIN CORPORATION All Rights Reserved.

§ AIオンデマンド交通を軸とした共創の課題について（２）

＜持続的な事業の方向性＞

現在、アイシンでは、この事業を継続拡大していく為に、二つの大きな方向性を考えている。

・方向性１：利用者利用の機会拡大

児童生徒の移動支援、介護施設への移動支援、地域農産物や宅配便など貨客混載のサービス等、チョイソコプラットフォームを多様な移動手段に活用展開する事で利用者、利用の機会を増やし十分な収入を確保する方向である。

特に、自治体からは、デマンド交通を子供の移動に活用したいという要望がある。
具体的には、学校の統廃合に伴う通学支援、部活動の地域移行、習い事送迎の話が多くなっている。実際の現場では、以下（次頁）の様な具体的な課題もあり、国として考え方を示して頂けると現場のオペレーションがスムーズになる為、子育て支援のまちづくりとして、また地域の活性化の面からもサポートをお願いしたい。

November 16, 2023 / © AISIN CORPORATION All Rights Reserved.

§ AIオンデマンド交通を軸とした共創の課題について（３）

◇小中学生での課題

・遠距離通学児童の定義の合意

児童の通学にデマンド交通での送迎の要請があるが、既存車両は小さく、全員を送迎できないため、遠距離通学者の定義などを明確にすることで、車両や運営方法を持続可能な適正規模に企画したい。

・有償とすることに対する保護者の理解

保護者の理解が得にくい場合もある。基本的に受益者負担という考え方はあるが、利用者が少ない場合の運賃に格差が生まれる為、受益者負担と自治体からの補助の適正なガイドラインが必要と考える。

・児童優先の乗合

デマンド交通の車両を一般乗合区域運行の法規で運行している中で、児童を優先して利用させるには限界がある。
また、スクールバスでは規制が異なり、一般の方が乗ることが出来ない。デマンド車両の有効活用の観点で、生徒と一般の方が乗れる法的な枠組みを検討する必要があると考える。

・安全安心の仕掛け

保護者に向けた乗降時のメール送信、子供にお金を持たせない為の通学定期含めたキャッシュレス化などを実施している。また、子供の安全という観点で、自宅送迎の要請もあり、これらを含めたコスト増に対する負担の考え方を明確化したい。

◇高校生での課題

高校は義務教育ではないが、地元の高校に通って欲しいという自治体の想いもあり学校送迎を実施している例もある。ただし、部活動後など、帰宅時間帯が遅くなり、タクシー運転者の利活用に制限がある、また、安全安心の観点でも、街灯が少ない地域の場合では、保護者からの要望もあって、部活動後の時間帯では、自宅まで送って欲しいという声も出ており、これらの特殊なコスト増（サービス時間の拡大など）に対して配慮を頂きたい。

November 16, 2023 / © AISIN CORPORATION All Rights Reserved.

§ AIオンデマンド交通を軸とした共創の課題について（４）

・**方向性２：利用のきっかけとなる目的づくり**

単なる移動手段に留まらず、移動の目的を合わせて提供する事は、特に高齢者の心身の健康や、地域の活性化に資する事であり、結果的にも利用拡大を促す方向である。

お出かけの機会、即ち、“移動の目的”となり、且つ、これをきっかけに、今後のお出掛けを促進するイベント（体操教室、お化粧教室など）を、移動手段とセットで提供することができると、健康増進という未然防止の切り口で、高齢者のフレイル予防にもつながると考える。更に、お出掛けに伴う賑わいや経済活動が行われるため、地域の活性化にも貢献できると考えている。

今後は、こうした健康増進や地域活性化に対しても、自治体などからのご支援を頂き、目的づくりと共にデマンド交通事業の採算性向上を図る必要があると考える。

November 16, 2023 / © AISIN CORPORATION All Rights Reserved.

§ AIオンデマンド交通を軸とした共創の課題について（５）

＜チョイソコ展開における課題と更なる可能性＞

チョイソコでは、利用者の安全を最優先に考えると同時に運転者のコストを抑える為、昼間の比較的利用が伸びない時間帯のタクシー運転手に運転を依頼しており、安心安全とコスト低減との両立を図っている。また、チョイソコに必要なAIルートやオンデマンド受付、コールセンター、課金など共有サービスをプラットフォーム化し、安価でスピーディーな事業展開を進めている。

今後は、公共交通という趣旨に立ち返ると、移動を希望される方は、誰でも”等しく“、”安全”に“、移動して頂くことが重要である。また、予約型の乗合とすることで、予約という需要に応じて走行するため、”効率的な“移動手段になる。

・“等しく”：
子供から高齢者、住民だけでなく観光で来られた方、また健常者から支援が必要な方まで、多様な方が対象となり、デマンド交通のルールや車両の中で、如何に、ニーズに沿った多様な移動をサポートするのかが課題である。自治体によっては、住民限定だったり、高齢者限定、観光客含めて乗車可など、制約にバラつきもある。
今後の利用拡大には、オンデマンド交通の導入に関するガイドラインが必要と考える。

・“安全に”：
安心も考慮すると、二種免許保有の運転手という事だけではなく、万が一に備えて、ドライバーモニター技術での運行サポート、ミリ波による幼児見守りや忘れ物検知、更に要支援要介護で体幹が弱い方が乗車中に体が揺れてしまう事の検知など、室内監視の必要性も高まってくると考える。実際の導入では、技術的と共にコストも課題となってくる。

・“効率的な”：
個々に車両とドライバーを手配した移動に比べて、オンデマンド交通は効率的であるが、ヒトの移動、モノの移動など乗り合いの枠組みを広げることで更なる効率化を進めたい。また、電動車など、環境に優しい車の活用に対しても積極的な活用を考えてきたい。

→オンデマンド交通は、公共交通をベースに、多様なステークホルダーへの価値を付与することで、社会課題の解決促進や事業目線でも持続的な交通サービスとなる可能性があると考えて推進しており、多方面でのサポートをお願いしたい。

November 16, 2023 / © AISIN CORPORATION All Rights Reserved.